

☆あつたらいいなのサービス作り☆

ゆう通信

45号
2023年
8月発行

ワークスペース歩歩 販売会



商品は、ワークスペースほほでもお買い求め頂けますが、ぜひイベントにも足を運んでいただけたらと思います。今年度よりマリゲート塩釜のイベントや中山イオンでも販売中！



定番商品

「森の小鳥」



新商品①

きなこちゃん

新商品②

ファーマーズバスケット



※ディスプレイ例

イベント情報は
SNSでも
随時更新中！
フォローを
お願いします。

Facebook



Instagram



— 目 次 —

シリーズ『成人期の生活を考える～親亡き後に向けて～』	P2～5
第1回 自立生活に欠かせない楽しみ(余暇)	
第23回 定例総会報告	P6
職員研修でのグループワークのご報告	P7
今年度の役員紹介とメッセージ	P8～9
退任理事・28年の振り返りと今後へのメッセージ	P10
インフォメーション	P11
スタッフリレー／第11走者：ピーターパンふくおか 大沼 千紘	P12
NEW 職員紹介	P12
賛助及びご寄付のお礼	P12

シリーズ『成人期の生活を考



自立生活に欠かせない楽しみ(余暇)



今回の主人公の紹介

高橋 佑さん (28才)

現在は自宅でご両親と同居し、日中は就労継続支援 A 型の『M's スタイル』に通っています。サンホーム→ピーターパン→ワークスペース歩°歩°と、各発達段階でのサービスを利用しながら、「自立^(※1)」に向けて進んでいるところです。



(※1)「自立」とは…ご本人らしく「暮らす」「働く」「楽しむ」ことが、満たされた生活です。「一人で出来る」ということではなく、「上手に、周りに助けをもらいながら」生きることだと言えます。周りの人や資源と繋がりながら生きていくことが、本来の「自立」の姿です。

佑さんの歩み

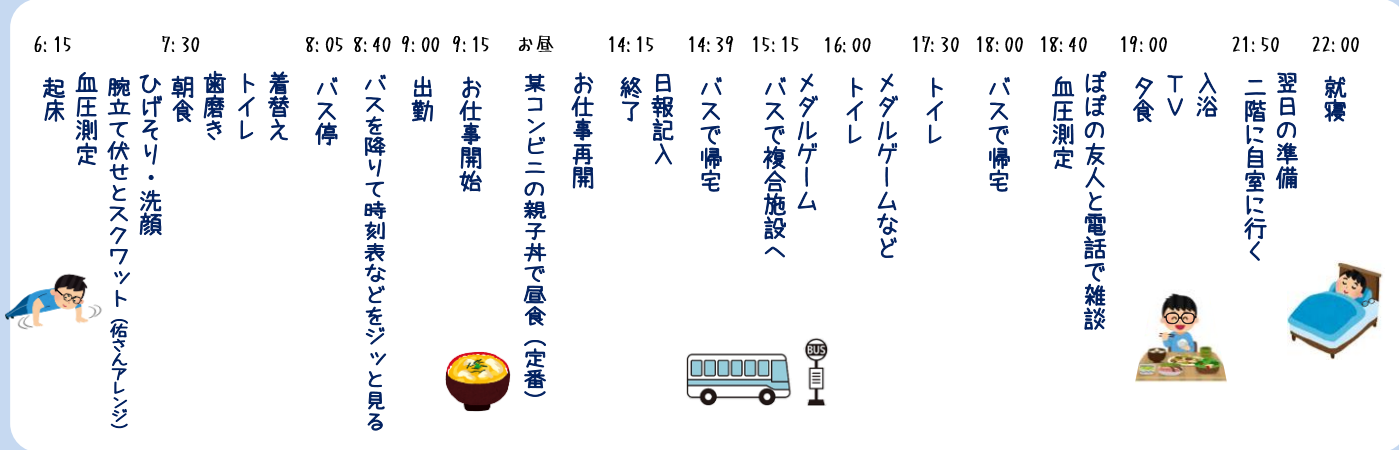
- 言葉が出ないなどの心配で、児童相談所に相談
- サンホーム(母子通園施設)に1年半通園
- 地域の保育所(統合保育)に通園
- 地域の小・中学校(支援級)に通学
- ピーターパン(放課後等デイサービス)利用
- 特別支援学校の高等部に通学
- ワークスペース歩°歩°(就労移行・就労継続支援 B 型)通所
- MK アシスト(就労継続支援 A 型)就労…[事業所閉所]
- M'sスタイル(就労継続支援 A 型)就労中

幼少期にみられた行動特徴

- ・母親に抱っこされるまで泣き止まない
 - ・じっと座って待ってられない
 - ・お店の中では、サアといなくなる
 - ・クッキーの缶の蓋など気に入ったものをいつも持ち歩く
 - ・道順が違くと怒り出す
 - ・時計屋など同じ場所に行きたがる
- こだわりも衝動性もあり、自閉性の特徴が顕著でした。

普段のタイムスケジュール

規則的で、働くことも、楽しみも、上手に取り入れています。



CAPTER
2

「働く」ための支援

佑さんの特性を活かした「働く」ための支援は、「同一性保持」を活かした職場探しと「余暇」のゲームセンターに行ける条件を満たす所が、ポイントと考え、ご自宅から歩いて行ける、水耕栽培を行なっている就労継続A型事業所を念頭に、就職の支援を行ないました。決まった計量作業と封入作業は、バッチリです。分担作業でも、相手の名を読んで、手渡すなど、やり取りも十分。評価は上々で2年間A型事業所の「MKアシスト」に通いました。しかし、A型事業所で借りていた農地を地主に返還しなくてはならず、事業所が閉所してしまいました。

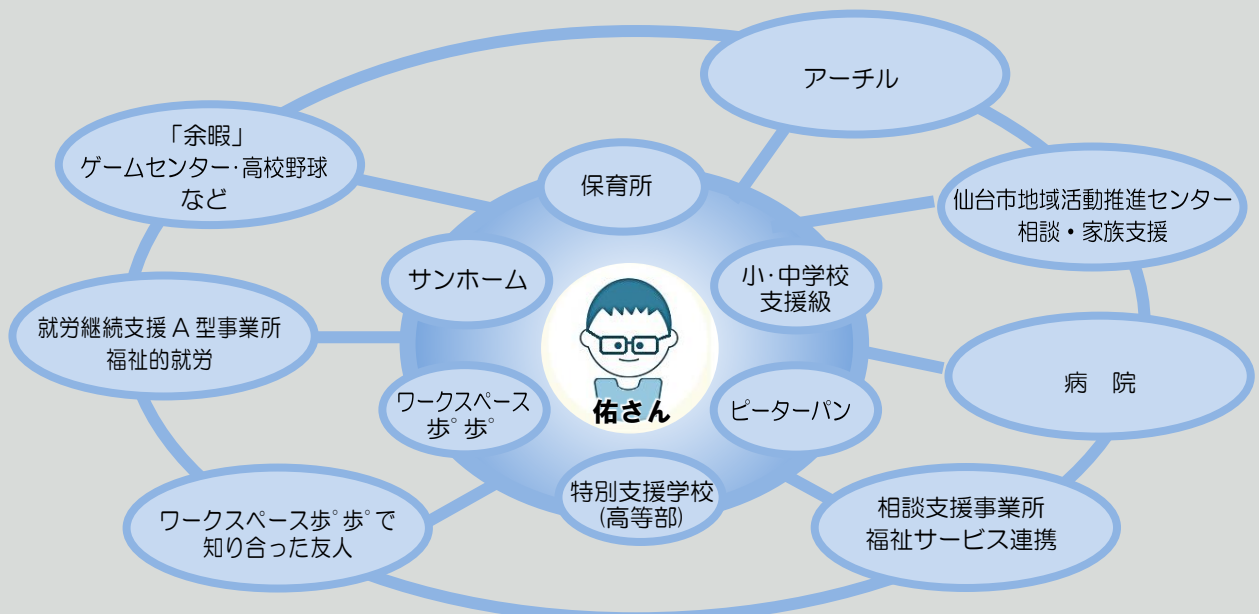
そこで、バスで通うことにはなるものの、帰宅後、ゲームセンターに行ける他の事業所を開拓。別のA型事業所に就職。付箋やマスク封入などの繰り返し作業で、作業マッチングは十分。しかし、検品作業で、課題が噴出。揃っていないと納得できず、他の利用者の作った付箋を、「曲がっています」と佑さんが検品すると、殆ど残らずということに。そこで事業所の担当者とは相談して今は制作担当に異動しました。今後は、施設外就労にも出てもらいたいとの事業所の希望に応えるため、スケジュールの事前提示を事業所に依頼して、仕事を終えた後に、ゲームセンターに行けるようにイメージ作りをしてもらっています。

毎月のお給料と基礎年金を合わせて合計で14.5万円の収入があると、将来の目標であるグループホームでの自立も可能です。今後、ご本人とご家族と話し合っていきます。



▲ジグを使って「ふせん」を作成しています。3つの「ふせん」を台紙にきちんと揃えて貼っていきます。出来上がりをきれいに積んでいます。とても気持ちよさそうです。

【佑さんが紡いだネットワーク】



CHAPTER
3

「自立」へのポイント

●心の安心素材を保障し、気持ちを整える…「余暇」

自閉症の人にとって、世の中全てが特性を理解してくれている安全な環境で、安心できる人たちがいる場合、心の安心を保つことができます。しかし、その環境と人が育つためには時間がかかります。そんな不安な世界の中でご本人やご家族が「困り感」のひとつとらえている「こだわり」や「ルーチン」は、むしろ本人の気持ちを安心につなぐ手立てでもあります。「こだわり」を取り除くものとして考えずに、その人の「足場」として考えたいものです。

佑さんにとっては、毎日の仕事の後の「余暇」、ゲームセンターのメダルゲームがそれに当たります。

●トップダウンでの提案も選択肢のひとつに置く…「相互主体性」の関わり

また、佑さんの不得意な「見えていないこと」の一つに「これから先どうしたら良いのかという将来」があります。「目に見えないので」、自発的に(内発的に)、自分から「こうしたいです」とは、言葉に現れません。そこで、今後の仕事について相談した時、同じ仲間就職した方を例に「〇〇さんと同じように、佑さんも就職しましょう」と提案しました。「〇〇さん」というモデルから、少しイメージができた様子で、早速、見学・実習へ進みました。

「ご本人の意思決定支援」という観点から考えると、本人からの意思表示に添って行動することと、イメージの立ち上がりにくい自閉症の方とは、一緒に(相互に)イメージを持つ「相互主体性」という関りをも取り入れることができる場合もあります。

＝編集担当者の感想＝

今回、ゆう通信の企画担当者として、インタビューに同席しました。私は佑さんが小学生4年生の時から小学卒業される期間、放課後等デイサービス(ピーターパンてらおか)で関わらせていただいております。それから17年ほどの間が空いて、今回お会いしましたが、私が見ている頃の佑さんの姿とはとても違った様子が見られたことに大変驚きました。小学生時代はご自分の好きな話や気になることの質問等、一方通行のコミュニケーションが中心でしたが、インタビュー中に静かに佐藤さんの話を聞き、分からないことを質問したり、質問に答えたりと、相手のペースに合わせてながら他者とのやり取りをされていたからです。ワークスペース^歩歩^歩で取り組んだというグループワーク(対人相互交流)の成果を強く実感することができました。

また、ご本人の特性を正しく理解し、強みや楽しみを活かすことや、ご本人の代弁者・伴走者として周囲の理解を得ながら佑さんのサポーターを増やしていくことで、就労継続支援A型事業所で働いたり、グループホームでの生活を視野に入れて生活をするができるようになったりと、ご本人の様々な可能性が広がっていくのだということを改めて勉強させていただきました。私も伴走者として一人前になれるよう気を引き締めるとても良い機会になりました。

浅野 弘絵

次回は、自立に必要な掃除・洗濯・金銭管理などのスキルの獲得を念頭に、家事支援を組み入れて、ヘルパーさんと一緒に取り組んでいる事例を紹介します。ご期待ください。



認定 NPO 法人
グループゆう

第 23 回 定例総会報告

定例総会が5月26日に開催され、議案が提案通りすべて承認されました。なお、総会で選任された役員は、理事7名、監事2名で、理事の互選により代表理事は中村祥子が選任されましたのでご報告いたします。

代表理事 中村祥子

成果

～法人全体の振り返りと今後に向けて～

2022年度の成果と課題そして2023年度的最優先課題を報告いたします。

1. “本人を真ん中にした、人とサービスの輪つなぎ”の推進

「中期計画」で目指した「連携によるトータルサポートの推進」が具体的な事例を通して進みました。

グループゆうは幼年期から成人期までのサービス事業所がありますが、それぞれの事業所の一人ひとりの利用者さんの課題に沿って、必要な連携を行い課題解決につなげてきました。主な連携には①社会サービスをつなぐ連携②ライフステージを横断してつなぐ③本人を取り巻く関係者等(家族・支援者・関係機関)があり、2022年度は職員研修会で地域の機関と連携して取り組んだ二つの事例を発表し、“本人を真ん中にした、人とサービスの輪つなぎ”の効果を共有することができました。またBCPの作成や虐待防止委員会の運営等も次世代リーダーが中心に職員を巻き込んで進めたことで、法人運営への職員参画の流れができた年でした。

2. 新規事業「短期入所」の開所

永年、利用者ご家族からニーズが寄せられていた「短期入所」を開所しました。目的はご本人の将来の自立生活におけた体験の場とご家族の休息です。開所して、通所事業の中では知る機会がなかった、家庭での日常生活(「食事」「風呂」「就寝」「起床」「余暇」等)を知ることができました。また、ご家族の日常生活支援の膨大さと支援の工夫の数々を教えて頂き感嘆の連続です。

3. 職員全員でグループゆうの根っこを考える

設立以来改正していない「法人のパンフ」の文言(NPOの使命、それを進める市民の自治等)についてわかり難いという声が職員から上がり、職員の第1回のグループワークがありました。何回かグループワークを開いて話し合う計画で、職員全員で紡ぎ出す新しいミッション表現が待たれます。

課題

1. 厳しい収支バランス

2022年度は、法人の継続を危惧させる収支バランスの厳しさでした。原因は、日々利用される利用者数が減ってきた為です。評価されていると考えていた支援の質に課題がないか、利用者ニーズをアセスメント出来ていなかったのではないかなど、減少の要因を話し合い、対策を講じ行動することが必要です。また、これまでの管理者のボランティア体制から賃金が発生する職員体制に移行したことも原因の一つで、労働対価を産み出すことのできる経営への転換が急務です。

2. ピーターパン長命ヶ丘 閉所

収支バランスで赤字が続いていたピーターパン長命ヶ丘は、全事業を挙げて立て直しの努力をしましたが建物の老朽化も加わり再建に至ることができず、2023年8月で閉所する決定を致しました。ご支持頂いていたご家族と通所して下さった利用者の皆様にはお詫びの言葉もありません。経営責任を重く受け止めています。

今後に向けて

今期、新たに外部団体から理事2名、法人から次世代会員2名の理事が選任され、あらたな視点を加味した法人運営への道筋がついたことは、大きな希望です。

2023年度、グループゆうは「利用者を選ばれる事業体」になること、また「職員の働き甲斐」のある職場になること、そして「社会に役立つ事業所だから応援しよう」と言って頂ける法人になることを目指し、法人の存続をかけて「経営の改善」に挑みます。皆様の変わらぬご支援と、叱咤激励をお願い申し上げます。





職員研修でのグループワークのご報告

令和5年5月27日(土)の総会后、職員研修を実施しました。今回は2つのテーマをもとに新任理事である波多野先生にもご協力いただき、グループワークで『グループゆうの強みと今後の課題』について意見交換をしました。

この研修実施に至る経緯としては、理事や管理者だけでなく、全員参加型で事業運営や課題解決を考えていきたいという思いから中期計画に【グループゆうのミッションをより分かりやすく表現する】という目標を掲げ、その一貫で職員の想いを共有するグループワークに至ったものです。今回限りではなく、全員参加型のグループワークは今後も継続的に実施して、ミッションを分かりやすい表現で共有していきたいと考えています。

テーマ1

『私たちの「持ち味」「魅力」「強み」ってなんだろう？』

- ◆ **永く、広く支援できる**
未就学児、学齢期、成人期、高齢者と様々なライフステージの支援/通所と訪問、宿泊などのサービス提供
- ◆ **利用者のご家族とのつながり**
利用者さんとその周りの方々(家族・兄弟・支援者)の相談援助や協働
- ◆ **学びと成長の場をつくれる(得意をのばしつつ)**
職員の個性を尊重しながら、互いに相談・連携/相談しやすい職場環境
- ◆ **みんなが自分事(現場の思いを大切に)**
利用者さんの困り感・生きづらさをみんなが共感・自分事として共に悩み、考える
- ◆ **必要なら新しいことも取り入れる**
従来のやり方に捉われない利用者さんのニーズに合わせた新しい支援・環境整備
- ◆ **顔を合わせて**
法人全体での会議・研修で顔の見える関係性作り/役職に関わらず、お互いの意見を伝えやすい環境



テーマ2

『将来やった方がいいのに、まだやれていないこと(目指したいこと)』

- ◆ **新しいツール活用**
ペーパーレス化やICT化など便利なツールを取り入れて業務の効率化を図りたい！
- ◆ **グループゆうの良さをもっと知ってもらおう**
各種SNSやホームページのリニューアルでたくさんの方にグループゆうのことをアピールしたい！
- ◆ **学生さんとのつながり**
ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行って、未来の人材育成をしていきたい！
- ◆ **事業所間のつながりをもっと密に**
法人内の職員交流や情報共有をもっと活発化させていきたい！
- ◆ **色んなケースを学びたい**
様々なライフステージごとのケースを学ぶことで、将来を見据えた支援ができるようになりたい！
- ◆ **ONもOFFも大事に**
給与のベースアップ・手当の充実・残業削減





今年度の役員紹介とメッセージ



新任理事
はたの たくじ
波多野 卓司



「こんなことをしたい」という個人や組織の「思いをカタチに」するお手伝いをしています。そんななかで出会ったゆうのみなさんの、「目の前の人の声を丁寧に聴き取り、その声の先にあるものを見つめようとする佇まい」に、以前から心打たれてきました。社会という窓から、心地よい風が吹いてくるのは、きっとこのような佇まいの人がいる場所なのだろうとも感じています。私もそのような風を送る一人となれたらと思います。



新任理事
やっ なおみ
谷津 直美



この度理事を拝任いたしました認定 NPO 法人アフタースクールぱるけの谷津です。グループゆうさんには、当団体立ち上げの時から仙台の NPO そして放課後等デイの先駆け・先輩として長年教えていただき育てていただいております。そのご恩返しも含めて微力ながら何かお役に立てることがあればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新任理事
あきの ひろえ
浅野 弘絵



この度、新任として理事に選任されました浅野弘絵です。私は現在、事務局次長の傍ら放課後等デイサービス「ピーターパンふくおか」、居宅介護、短期入所、相談等の様々な事業に関わらせていただいております。

これからグループゆうがどんな形で地域に貢献させていただけるのかを考えながら理事として全力を尽くしていきたいと考えております。まだまだ分からないことも多いのですが、皆様のご指導ご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

新任理事
たかはし たつり
高橋 辰徳



この度、理事に選任されました高橋辰徳です。

私がグループゆうに入職してから社会状況は変わり、今も日々変化しておりますが、団体を設立した 28 年前の「想い」を大切にしながら、新しい事にも積極的にチャレンジし、これからも変わっていく社会状況に置いて行かれることのないグループゆうであり続ける為に日々精進して参ります。まだまだ至らない点も多くあるとは思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

再任理事
かんの よしえ
菅野 淑江



児童発達支援センター仙台市サンホームの園長になり、6年が経過しました。これまでの発達障害児の保護者としての活動や保健師としての健康増進業務、企業での産業保健師・産業カウンセラー業務、教育機関での人材育成経験等を生かして、センターの充実のみならず法人組織の運営などにも努力してまいりたいと思います。児童発達支援センターは今後ますます地域支援を拡充し、インクルーシブな地域づくりへの貢献を求められています。対象の拡大とともに支援者の輪を広げ、横断的・縦断的な育ちのサポートを担っていきます。

再任理事
さとう ひろのぶ
佐藤 裕信



今年度 2 年目となる佐藤です。運営面のことは、なかなか難しく、お役に立てていないのですが、仙台市地域活動推進センターでの、自閉スペクトラムのご本人やご家族への関わりや保育所や学校、職場やグループホームなどと一緒に取り組んだケースカンファレンスを通して、感じたこと、学んできたことを、皆様にお伝えし、一緒に考えていきたいと思っています。ご本人を包み込む、様々な点（社会資源）が互いにつながり合い、柔らかく光り、瞬く『星座』を、眺められますようにと、願っています。星を紡いで行きましょう！

監事
あきう あきら
秋保 明

「あったらいいな」を合言葉に誰もが住みよいまちづくりに努力されてきた皆様には改めて心より敬意を表します。さて、法人格を取得されてから 20 年以上も経ちますと、活動の発展と共にそれに伴う困難さも抱えることがあり、今年度監査におきましても、財務状況改善を始めとして様々な課題があることを伺いました。こうした時には、ややもすると目の前の課題や困難さにばかり目を奪われ、小手先だけの手法で乗り切ろうとして結果的に法人の掲げる理念に相反する事態に陥ることがあります。困難な状況にある時こそ、役員・職員の皆様で率直かつ本質的な議論をして、より良い方向へ進んでいただきたいと切に願います。いつも法人の理念に立ち帰り、幅広い視野で物事を考える<Think globally>とともに、市民のニーズを地域の課題として捉えて行動する<Act locally>ことができるように、益々のご発展を祈念しております。

監事
くろさわ あきら
黒澤 哲



昨年度より監事を仰せつかっている NPO 法人自閉症ピアリンクセンターここねっとの黒澤と申します。日頃は発達障害のある方々への支援と法人の運営する立場で仕事をしております。グループゆうさんとは当法人の立ち上げ当初からのお付き合いで、中村さんをはじめ皆さんからも日頃から色々ご支援をいただいているところです。監事という立場ではありますが、行政との連携協働、人材養成、法人運営などこれまで得た知識や経験を活かし、貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

代表理事
なかむら しょうこ
中村 祥子



仲間にもまれて楽しくやっている活動ですが、社会的課題の根っこの深さに戸惑うことが多く、一つの法人で貢献できることはわずかだと実感しています。“一人の困った”の解決には、縦割りや横並びではなく、社会資源をガラガラポンして、適切な役割分担と多様な連携を模索する必要があります。今期、法人内外から参画いただいた理事とともに、次期中期計画を検討します。「役に立ったよ！」と言っただけの、「担い手も輝ける」法人を目指して。



退任する理事の28年の振り返りと今後へのメッセージ

退任理事(副代表)

たかはし みちよ
高橋 路代

[理事就任期間]

2000年4月～2023年6月



退任理事(会計担当)

もんま みよこ
門馬 美代子

[理事就任期間]

2000年4月～2023年6月



【聞き手】

代表理事

なかむら しょうこ
中村 祥子



中村 1995年の7月から足掛け28年間、お互いよく続きましたね。お二人は一足先に退かれた三人の元理事同様、これからも事業に関わって下さることは確約済みですが、今年、2000年の法人設立当初から関わられた理事職を退かれるに当り、メッセージを頂ければと思います。

中村 この間、大変なこともあったのではないですか？

門馬 設立時は47歳。あっという間の28年でした。夫の会社、母の介護、他のNGOの役員をしながら、その合間の子どもたちの進学、自立、結婚等の度に、仙台と東京・大阪・札幌…と、よくぞ体が動いたなあと感じますが、とても充実した楽しい日々でした。朝目覚めて「今日やる仕事」があることは、幸せなことですね。

高橋 目の前の「困った」に夢中で向き合っていたら28年過ぎていた、という感じですね。

私は、自分でやろうと決めたことは、苦勞とは考えない性格なんでしょうか。大変だったことが思い浮かばないんです。でも、ケータリングのパーティーが夜の時は、後片付けが終わると次の日だったこともありましたね。運営費を補填しなくちゃという目的があったから頑張れたんですが、年齢も関係してたんでしょうね。疲れを知らなかったあの頃が懐かしい！

中村 当初は、主婦のボランティア活動に家族の理解が得られなくて、悩む仲間が多く、皆で仙台市の「女性問題自由学級」に参加して勉強しましたね。女性はこうあるべきと教えられてきた「性別役割分担」や「主婦規範」が根っこにあるのだと学んだわけですが、それは簡単に解決できるものではなく、参加を断念した方もいましたよね。お二人はどうご家族と向き合ったのですか？

門馬 家族の、特に義母の理解は大きかったですね。義母はその世代では珍しいキャリアウーマンでしたから、同じ女性として積極的に私を応援してくれました。夫も自分がしたいことを人に制限されることが嫌いな人ですから、私のしたいことも尊重してくれています。

高橋 自分の得意を活かして社会参加することが生き甲斐でゆうで活動している自分が「一番輝ける自分」でした。夫はそれをわかってくれていたんでしょうか。一度も主婦

規範をかざして活動を制限されたことはありません。これは、ひょっとして奇跡的なことだったのかな。

中村 お二人のご家族は、夫の妻・子の母という対象ではなく“路代さんの意思”“美代子さんの意思”を尊重されたのですね。家族の応援は心強いですよね！

中村 女性の自立と社会参加の場作り、男女共同参画、家事や育児の社会化を目指そうとしてきましたが、どこまで出来たでしょうか？

門馬 定款で一人一票の会員制にしたこと。現在のゆうの会員は8割が女性。また意思決定(理事やリーダー層)の場にも女性が育ってきているので、基礎は出来たのではないのでしょうか。後は、個々の意識の問題かな！

高橋 介護保険制度では出来ないが“あったらいいな”と思うサービスを「助け合い」などで繋げることで、個々の事情に合ったサポートが可能になり、家事や介護の社会化に役立ったのではないかと思います。そして職場作りでは「子育て支援枠」や「自己登録制」を取り入れ、得意や体力や自己都合に配慮したシフト調整をすることで、老若男女の社会参加の機会を広げられたと思う。

中村 今後に向けてのメッセージをお聞かせください。

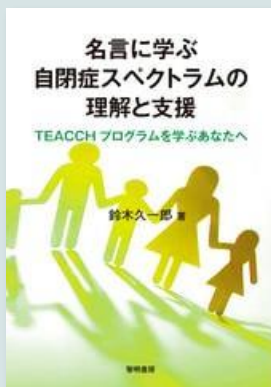
門馬 有能なスタッフに恵まれ、心配なく後を任せられることが一番うれしい。若きリーダーたちの情熱とバイタリティーでこれからの時代にふさわしい「グループゆう」を育てていってください。

高橋 体調を崩した時、仲間たちのチーム力に助けられ感動しました。これからも働き手の事情に配慮した調整力、互いに支え合うチーム力を“ゆうの財産”として大切に育みつつ、利用者に向かい合って欲しいと思います。また、ゆうは時代のニーズを先取りしすぎる傾向があるが、コロナ禍に断念した「子ども食堂」と「地域サロン」は再開できるといいねー。

中村 今日は1995年から2023年の間を行ったり来たりの楽しい時間をありがとうございました。設立時の思いを継承してきたお二人からのメッセージを受け止め、新たな役員の方々と力を合わせて次の世代に繋いでいきたいです。これからもよろしく願いいたします。

Information

鈴木久一郎先生の書籍ご紹介



グループゆうのスーパーバイザーとして携わっていただいている鈴木久一郎先生が書籍『名言に学ぶ自閉症スペクトラムの理解と支援』を出版されました。TEACCH を学ぼうとしている方の手助けとなる名言70を厳選し、先生の30年にわたる自閉症支援の経験を踏まえた分かりやすい解説とともに紹介されています。

発行：黎明書房
定価：2,200円

全国の書店や
ネットで
販売中です！

自主勉強会サークルの設立

長い間「法人内での横断的な研修を充実させていきたい」という思いはありましたが、勤務時間内に全員が揃って参加できる機会を設けることは現実的に難しいということで、7月から任意のサークルとして『自主勉強会』を立ち上げました。

家族支援も含め、幼児期からの育ちを学ぶことで、利用者さんのことがもっとわかるようになること、今必要な支援や次のステップを意識した支援が考えられるようになることを目標に月1回程度で定期的に開催する予定です。



他県からの訪問見学

東京都清瀬市にある社会福祉法人【子供の家】の職員4名の方々がグループゆうの見学にいらっしゃいました。

子供の家さんでは児童養護施設の他に、“そだちのシェアステーション”として日本財団の第三の居場所事業や子育て短期支援事業、こども食堂などを開設しています。その事業を通じて「これからどのように地域と繋がっていき、支援の充実を図っていくか」という課題をお持ちになっているということで、グループゆうの各事業所での取り組みをご紹介しながら意見交換をさせていただきました。



9月には私たちが訪問見学をさせていただきたいと思っています♪



HPのQRコード

大学生ボランティアの受入れ再開！

2015年から東北学院大学の「ボランティア活動」という講義の一環で、学生の方々がボランティア体験をする事業の1つとしてグループゆうも関わらせていただいております。ここ3年程はコロナの影響でボランティア受入れを中止しておりましたが、今年度から再開することになりました。今年は4名の学生さんがピーターパンふくおかにてボランティア体験をしていただきます。



スタッフリレー



職員が職員にバトンを渡し質問したり、仕事以外の自由記述から普段は見えない素顔を紹介するコーナーです。10 走者「安藤雪華子さん」から第 11 走者「大沼千紘さん」へバトンが渡されました。

●第11 走者: ^{おおぬま}大沼 ^{ちひろ}千紘

- 所属：ピーターパンふくおか
- 勤続年数：5年
- 出身地：宮城



大沼さん教えて！ ※安藤 雪華子さんからの質問です

- 最近のマイブーム：プロレス観戦
- 好きな映画：ボヘミアン・ラブソディ♪
- 飼ったことのある動物 or 好きな動物は？：
 ミニブタを飼ってみたい♥
- 一番落ち着く場所：自宅のソファア
- おにぎりの具といえば：明太子！ 
- 友達になりたい芸能人：いとうあさこさん

自由記述欄

● おすすめしたいスイーツ 3 選 ●

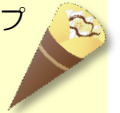
ずんだソフトクリーム

南三陸さんさん商店街にある『月と昴』さんのソフト。
ずんだのつぶつぶとさっぱりミルクが最高！



チョコバナナクレープ

『自然卵のクレープ五橋店』さんのクレープ。
生地がもちもちでクリームは3種類から選べます。メニューが豊富なので色々味が楽しめます。



いちごだんご

宮城野区高砂にある『和菓子処うさぎ屋本店』さんのだんご。いちごは期間限定ですが、見かけたらぜひ食べてもらいたい新感覚団子です。



～みなさんもぜひ食べてみてください♥～

 第 11 走者 大沼 千紘さんから、仙台市サンホームの西澤 和夕子さんにバトンが渡されます。次号もお楽しみに！

職員紹介

仙台市サンホーム [R5 年 4 月～]

^{かわおか}河岡 ^{さや}紗彩さん



- 趣味・特技…犬の散歩
- 好きな言葉…急がば回れ
- 抱負…サンホームに通う人みんなが安心して過ごせるように頑張ります。

仙台市サンホーム [R5 年 5 月～]

^{うめつ}梅津 ^{ももこ}桃子さん



- 趣味・特技…旅行・カラオケ
- 好きな言葉…人生全力で楽しむ
- 抱負…お子さんと親御さんの笑顔のために寄りそった支援をします。

あたたかいご支援に勇気をいただいております。

ありがとうございました。

ご寄付いただいた方々 (R5 年 4 月～6 月)

(※敬称は略させていただきます)

秋保 明、アフタースクールぱるけ、阿部 薫、荒井圭子、大澤敏江、岡田 勝、日下直子、黒澤 哲、小松原靖子、清水八千代、高橋路代、畑中久美子、松本哲夫、丸登志子

編集後記

「これまでにない」という枕詞の気象報道を聞くと、やらなければならないことを積み残している私への警告のような気がする。 **N**

今回もギリギリ滑り込みの発行…。いつか編集チーム拡大を狙っています。 **A**

梅雨が明けて、暑い夏が来ました。体調管理に気を付けて、乗り切りましょう。 **K**

今年はやっと全国でお祭りが通常開催！私も久々に花火大会いきたいな♪ **T**

発行: 認定 NPO 法人 グループゆう
〒981-3212 仙台市泉区南中山 2-12-3
【TEL/FAX】022-376-7679
【ホームページ】<https://www.g-yuu.com>